

■矢口新の教育思想と実践の研究：活動報告－水海道③

水海道小フィルムライブラリーの発見

2008年8月7日、水海道小学校への2回目の訪問。倉持、大久保、飯村、飯沼の4先生へのインタビューと資料調査をするためであったが、この日、前回の調査で所在が不明であったフィルムライブラリーが、実は校舎2階の中央廊下のキャビネットにあるということが

分かった。新校舎に引っ越した当時の教頭であった飯村氏が移動させたということだった。早速全員で現場に

中央廊下の片側にスチールのキャビネットが5本あり、その中に古びたケースに入った16ミリのプリントがぎっしり。ざっと見て400本以上あるのではないかと思われた。

水海道小学校のフィルムライブラリー活動は、第一回の読売教育賞をもらった活動でもある。当時1本 万円(現在の価値では万円位)という16ミリフィルムをこのように大量にそろえていたということは、それだけ教育における映画の役割を大きく評価していたということである。

貸出記録もあり、使い方も記録するようになっているので、映画を使ってどのような学習活動が行われていたかがわかる貴重な資料だ。これは分析に値する資料であると、胸が躍った。

しかし、埃だらけでその保存状態は悪い。ビデオ、さらにはDVD時代に突入しつつある現在は、16ミリフィルムは全く使用されていないという。ケースもなくカビだらけになったフィルムもあった。心なしか、酸っぱいにおいもしている。このようなおいは、フィルムの劣化が始まっていることを示している。内容を調べると同時に、保存方法についても早急な対策が必要という見解で、調査班の意見は一致した。

(調査班：越川求、榊正昭、矢口みどり)

